

林政 隔週刊

ニュース

RINSEI NEWS

隔週水曜日発行

平成6年6月9日第三種郵便物認可



森と木と人のつながりを考える
(株)日本林業調査会

発行所 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28
飯田橋ハイタウン204

TEL (03)6457-8381 FAX (03)6457-8382

MAIL info@j-fic.com

取引銀行 三井住友銀行飯田橋支店(普) 810522

郵便振替 00160-8-98120

発行人 辻 潔

年間購読料22,000円(1部1,320円、消費税込み)(禁無断転載)

再生紙を使っています。

ホームページ <https://rinseinews.com>
<https://www.j-fic.com/>

2026(令和8)年2月25日(水)

第767号

■ニュース・フラッシュ

- 2035年の国産材利用目標量4,200万m³、新計画
- 住友林業が増収減益、米国住宅事業をテコ入れへ
- 挑む人 北の大地で飛躍! 森林業漫画家・平田美紗子さん
- 「森ハブ」シンポ開催、自立した民間運営目指す
- 林土連の新会長に嶋崎勝昭氏(四国林業土木協会)
- 10回目の「モクコレ」開催、生活用品など増える

■遠藤日雄のルポ&対論

“新たな地平”に踏み出す佐伯広域森林組合・中

■地方のトピックニュース

- 能登ヒバとアテ林業を国際ホテルショーでPR
- 神奈川県と信連が連携協定を締結、全国初
- 宇都宮市のセブン「標準型店舗」を初めて木造化
- 初の「かがわヒノキ」建築コンクール受賞作決定
- 諸塚村と飛騨産産が協定、認証製品開発など推進
- 広島県の「コウヨウザンWEBシンポ」に約400人

■特別インタビュー

昭和100年を生きてきた杉山・岐阜新聞社最高顧問

3



10

14

20



2月12・13日に東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された「WOOD コレクション(モクコレ)2026」で、各都道府県の森林の状況や、廃材を有効利用したアート作品(「白狼」、左上)などが展示された。(関連記事p8参照)

地方のトピックニュース

●能登ヒバをホテル・レストラン展示会でPR
「Noto room」と復興コーナー設置

国内最大級の宿泊・外食サービス産業向け展示会に石川県の「能登ヒバ」と「アテ林業」が初めて本格的にデビューした。2月17日から20日まで東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された「第54回国際ホテル・レストラン・ショー」の一角に、能登ヒバを使ったホテル客室「Noto room」と、アテ林業などを紹介する「創造的復興」コーナーが設けられ、観光業界の関係者らにPR活動を行った。



「Noto room」と能登ヒバ製品

「Noto room」では8事業者が連携して、能登ヒバのフロアリングやベッドフレーム、DLTナイトテーブル、ウッドブラインド、縫える木を使ったヘッドボード・枕などの各種製品を展示した。来場者からは「香りが気持ちいい」などの声が上がった。

また、「創造的復興」コーナーでは、10事業者が能登ヒバを活用したエッセンシャルオイル、料理ヘラ、ウクレレ、漆器などを持ち寄り、生活用品などのラインアップも充実していることをアピールした。

「ATEINET」と国際観光施設協会が連携・協働を進める

今回の展示は、「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興プラットフォーム」（通称「ATEINET」と、サポーターの国際観光施設協会が連携して実現した。ATEINETは石川県木材産業振興協会（金沢市）と能登森林組合（穴水町）が運営しており、能登半島地震（第716号参照）で被災した森林・林業・木材産業の再生と、アテ林業・能登ヒバを軸にした復興を目指している。

国際観光施設協会（東京都千代田区）は、ホテルや旅館の整備・改善に取り組む技術者集団で、設計事務所や建材・設備メーカーなどが会員になっている。同協会のメンバーは、2024年8月に石

地方のトピックニュース

川県の被災状況を視察し、林業・木材産業関係者らとの協働事業を進めている。

隈氏「今一番大事なのは匂い」、セミナーを開いて「協働宣言」

2月17日には会場内で、「アテ林業・能登ヒバで拓く、能登の創造的復興―森とまちをつなぐ、新しい復興のカタチ―」と題するセミナーが開かれた。

建築家でモア・トゥリーズ (more trees、東京都渋谷区) の代表理事もつとめる隈研吾氏と能登森林組合長の亀井順一郎氏及び石川県木材産業振興協会理事の古谷隆明氏が登壇し、地域振興の方向性などについて意見を交わした。

隈氏は、モア・トゥリーズの創設者である音楽家の故・坂本龍一氏も地域材の活用などに取り組んでいたことを紹介した上で、「できるだけ多くの人に能登の魅力を知って欲しい」と呼びかけた。

亀井氏と古谷氏は、能登ヒバの特長などについて説明し、抗菌・殺菌機能や防虫効果が高く、芳香があり、耐久性の高さから土台などにも向いていると強調した。

これを受けて、隈氏は、「木を選ぶ基準は時代によって大きく変わる」と述べ、「今一番大事なのは匂いだと思っている。素材そのものが持つ香りがホテルの空間づくりにもつながる時代が来ている。能登ヒバの多機能性を活かしている」と語った。



「Noto room」を視察する隈研吾氏 (右端)

セミナーの締めくくりとして、「能登の創造的復興に向けた能登・ふるさと共創の森づくり協働宣言」を行い、モア・トゥリーズとA T E I N E Tも連携を深めていくことを確認した。